

交運労協 FAX ニュース NO. 15

港区芝浦3-2-22 田町交通ビル3階 発行日 2020年7月30日

TEL:03-3769-6571 FAX:03-3769-6570

発行人 高松 伸幸

矢上雅義議員が豪雨災害対策で質問！

7月29日、衆議院国土交通委員会において、交運労協政策推進議員懇談会の矢上雅義議員が、令和2年7月豪雨に関連して質問を行った。



矢上議員は甚大な被害を受けた地域公共交通について、「JR肥薩線、第三セクターのくま川鉄道、肥薩おれんじ鉄道などの鉄道、鉄橋等が流出して、通勤、通学の足が途絶えている。このような甚大な被害により、JRまた地元自治体のみでの財源負担は非常に厳しい状況にあり、代行バスについての財政支援等について伺いたい」と質した。これに対して、久保田雅晴公共交通・物流政策審議官は、「経営環境が厳しい鉄道事業者にとっては、災害復旧費用に加えて、代替輸送の長期化に伴う運行費用の負担が拡大すれば、今後の事業運営上の大きな重荷になる。これらの地域鉄道が復旧後に円滑に運行継続できるよう、代替運行バスに対する国の支援について、しっかり検討してまいりたい」と答弁した。

続いて、矢上議員は、「交通政策基本法の中に、単なる災害復旧だけでなく、のり面、路肩の強化など機能向上につながるような、きちんとした基盤を整備して持続可能な地域公共交通を守っていくという法体系も必要ではないか」と主張した。これに対して、赤羽大臣は、「事前予防という観点で、老朽化しているインフラの対策を早期にやらなければいけない。しかし、それは鉄道事業者だけに財源的な負担をお願いする形だと、なかなか前に進まないというのも実態だと思う。これは大変大きな課題だが、昨今の状況を踏まえて、公共交通機関をいかに維持していくのか、いかに災害に強くしていくのかということは、重要な課題と認識して、国交省としても前向きに検討させていただきたい」と答弁した。

交運労協は、持続可能な地域公共交通の確立に向けて、引き続き議員懇と連携を図りながら取り組んでいくこととする。

以上

